

平成30年度 自己評価報告書

評価対象期間 自：平成30年4月1日
至：平成31年3月31日

評価基準日 平成31年4月1日

学校法人栗岡学園
阪奈中央看護専門学校

評価項目の達成および取組状況

- 1 教育
- 2 施設・設備
- 3 学生サービス
- 4 教育面などでの特筆すべき取り組み

回答責任者：副校長、副校長補佐、看護学科教務主任、准看護科教務主任

教育分野 看護

1 教 育

項 目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	○教育理念、教育目標を土台とし、教育目標を示し、カリキュラム構成を行っている。	○教員への周知は行っている。 夏期にカリキュラム改正に向けて、目標の見直し検討を行った。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○引き続きカリキュラム改正に向けての教育内容の検討を行う。 ○教員に対して、より一層の教育目標の理解・共有を図る。
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	○コミュニケーション力や基礎看護技術も含め、看護実践能力を強化できるように取り組んでいる。実習で抑えきれない点のDVDの充実をはかった。 ○准看護師の職場ニーズの把握に努めているが、3月まで決定に至らない場合もある。	○指導者会等で実習施設と意見交換を行い、カリキュラム内容にも反映しつつあるが十分とは言えない。 ○准看護師に限っては、徐々に限定されてきている。 ○卒業生対象のカリキュラム評価をしていないため、ニーズの反映について評価ができない	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○統合実習だけでなく、現場の状況を授業や技術指導にも取り入れたり、DVDを活用するなど、今後もギャップが少なくなるように努力していく。 ○准看護師の資格に留まらず、将来的には看護師の資格取得を学生に勧めていく。 ○准看護科のカリキュラムに看護過程が含まれないため、就職が限定される場合がある。関連病院と話し合いをしていく必要がある。
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	○基礎から応用、統合へと段階的に進められるよう、計画を立て実施できている ○非常勤講師の授業が優先となるため、実習担当教員の調整が難しい。 ○年度をまたぐ教科が1~2科目出る。 ○カリキュラム調整が難しく、終講試験が入りきらない現状がある	○学習進度について、実習との兼ね合いも考え、見直しを行っている。 ○疾病論での非常勤講師の配置が難しい。また、年間授業計画を立てる際にも、非常勤講師・教員・実習との調整が非常に難しい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○今後も引き続き進度調整を行い、講師依頼の時期なども検討していく。
4. シラバス（授業要項）を作成していますか（内容は適切ですか）	○作成している。内容も、教員・学生双方が分かるように明示しているが、すべての配布には至っていない。授業内容は学生便覧に明記している。	○常勤教員の担当科目は年度ごとに見直しを行っているが、非常勤講師の担当科目についての見直しができていない。 ○成人看護学についてはマトリックスを作成、見直しを図り活用している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○カリキュラム改正時期に合わせて、内容を再検討し、学生への冊子配布につなげる。 ○准看護科も学生への配布用冊子を作成中である

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	○前後期終了時、問題提起があった場合などに、教務会議で時間数も含め見直しを行っている。	○見直しを行っているが、時間が十分に取れず、前年度の経験で対応している場合もある。	5 4 3 2 1 + 4 3 2 1 ← つ → + 分 う 分 ○	○カリキュラム改訂を見据え、今後の動向や情報を元に、教務会議等で見直しを行っていく。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	○学校の教育目標や教科の内容に合わせて、学生により分かりやすいと考えられるテキストを採択している。 ○講義での使いやすさや講師の意見も参考にしている。	○すべてのテキストが活用されているとは言えない。また、出版社によりセット購入する場合がある。	5 4 3 2 1 + 4 3 2 1 ← つ → + 分 う 分 ○	○試験対策を踏まえ、採用している教科書以外の教科書を、副読本として配置し、活用の仕方を学生に指導している。 ○購入したテキストを十分活用する ○カリキュラム改訂や新刊本・改訂本など注意深く情報を得て、今後も教務会議等で見直しを行っていく。
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	○通年授業では終講時だけでなく、複数回試験を行っている。評価は終講試験だけでなく、課題や実技などを踏まえ、担当教員が認めた方法で行っている。成績不良者に対しては、学生や保護者との面談機会を設けている。 ○実習評価は評価表に沿って、教員及び実習指導者が合議して評価している。また、教務会でも討議し決定している。	○中間に試験があることにより、学生に勉強の必要性を意識化させることが出来ており、退学・休学を最小限に抑えている。 ○実習施設の指導者により実習評価に差がみられることもある。	5 4 3 2 1 + 4 3 2 1 ← つ → + 分 う 分 ○	○成績評価について、ベースとなる学習を教員間でこなっていく。 ○均質的な実習評価を目指し、実習調整者を中心とした協議が必要である。
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	○学生の理解度に合わせて、各教員の判断で授業形態や授業方法を選択している。非常勤講師については、担任が打ち合わせをしている。また各講師と担任とが話し合い、問題を早期解決すべく指導している。 ○非常勤講師への授業アンケートの一部開示を行っている。	○学生アンケートに、一部の授業方法への不満が記載されていた。 ○非常勤教員も、アンケート結果を授業改善の参考にしていく。 ○臨地実習の指導などで、授業方法等について研究する時間がとれない。	5 4 3 2 1 + 4 3 2 1 ← つ → + 分 う 分 ○	○研究授業や公開授業などを行い、教員間でも検討していく。 ○両学科とも、常勤教員へのアンケート開示を目指したい。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	<p>○入学前に事前学習テキストを配布し、入学後に基礎学力試験を行っている。</p> <p>○国家試験対策では、教員と学生による国家試験対策委員会を発足させた。例年の補習対策はもとより、各学年委員会が自主的に決定した対策を実行した。</p> <p>○資格試験対策においても、担任を中心に強化学習などの対策を行った。</p> <p>○月1回、土曜日に自習のための図書室解放を実施した。</p> <p>○成績不良者に対する夏期休暇中の補習、長期休暇中の課題学習を実施した。</p>	<p>○国家試験対策委員会については、結果をもとに分析中であるが、各委員からの報告ではよい評価を得られた。</p> <p>○学生も、主体的に国家試験対策に関わっている</p> <p>○在学期間を、有意義に学習に集中する期間であることを学生に対して指導している。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十 十 十</p> <p>← 十 → 十</p> <p>分 分 分 分 分</p> <p>○</p>	<p>○国家試験対策委員会については、「ナースになるぞ委員会」を発足し1年生2年生3年生が担当教員とともに定期的に会を開き、企画・運営している。</p> <p>○問題がある場合はその都度教務会で協議する。</p> <p>○今後も学生が主体的に関われるよう工夫していきたい</p>
10. マナー（喫煙指導などを含む）やしつけの教育や指導を行っていますか	<p>○担任を中心に、看護学生としてのマナー、身だしなみ等、その都度指導している。しかし、歩道に広がって歩く等、外部からの指摘が複数回あった。</p>	<p>○全教員が常時指導を行っているが、行動に変容のない学生もいる。</p> <p>○学内のみならず学外での行動についても指導が必要である。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十 十 十</p> <p>← 十 → 十</p> <p>分 分 分 分 分</p> <p>○</p>	<p>○今後も、その都度指導していく。</p> <p>○マナー・倫理観の学習を深める必要がある。</p>
11. 教育技術（教育方法）の研修・研究を実施していますか	<p>○各教員に、専門領域に関する学会や研修会への参加を呼び掛け、年2回の研修会参加を促せた。だが実習や講義等で研修に参加しにくい状況であり、研究も同様に時間的余裕がなく実施できていない。</p>	<p>○研修に参加した教員に、会議での報告や資料の回覧等行ってもらっている。</p> <p>○新しい教育方法について学ぶ機会があり、各教員積極的に取り入れている。</p> <p>○実習指導での担当学生数が非常に多く負担が大きいためか、教育方法について学ぶ姿勢が不足している教員もいる。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十 十 十</p> <p>← 十 → 十</p> <p>分 分 分 分 分</p> <p>○</p>	<p>○教員の自己及び相互研鑽のためにも、研修に参加できるような体制作りが必要である。今後も研修会参加した教員には、伝達講習を行ってもらいたい。</p> <p>○教員として授業内容の吟味・相談などを出来る環境作りが必要。</p>
12. 学生による授業評価を実施し教育改善に反映していますか	<p>○授業評価や卒業時アンケートを行い、その結果を受けて各教員が授業内容や方法改善に取り組んでいる。</p>	<p>○教員自身は結果を受け次年度に活かすよう、前向きに取り組んでいる。検討を要する場合は教務会で協議をしている。</p> <p>○非常勤講師に対しては、授業評価が十分に生かされていない。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十 十 十</p> <p>← 十 → 十</p> <p>分 分 分 分 分</p> <p>○</p>	<p>○評価の結果報告は非常勤講師にも報告し、次回の講義内容について相談する。</p>

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○設置基準に基づいている。 ○トイレを洋式に改修した。 ○学生更衣室に冷暖房がない。 ○面談スペースが少なく、利用希望が重なることがある。	○洋式トイレに変わり学生から好評。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○学生へのトイレ掃除の指導が難しい。 ○1階の障がい者トイレを多目的トイレとする。 ○自転車置き場に屋根を設置したい
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	○放課後の自主学習など学生の活用度は高い。 ○図書は専門分野ごとにある程度充実しているが、古いものも多い。	○学生や卒業生が使用しやすい環境である。 ○所在不明な図書が出ないよう、書庫を時間利用としている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○新書の購入の推進 ○図書室のパソコンの活用 ○図書貸出しシステムの刷新
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○基準に規定された通りで適切である。年に1回実習室の備品点検を行っている。	○必要に応じ、物品購入を行っているが、15年目を迎え、買い替えが必要となってきている。 ○タオル・シーツ・寝衣などの汚れ・破れが目立つ。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○段階を追って、新規購入が必要。 ○備品点検時に備え、新規物品購入時に、番号と年月日を入れる。
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	○各教室にパソコン等の情報機器を設置し、数は充実しているが、古くなり故障やトラブルがある。	○パソコン室のプリンターが1台しかなく、授業等で支障をきたしている。ソフトウェアのバージョンが古く、DVD視聴やPowerPointの読み込みに難がある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○担当の教員の要望などを踏まえて、対応していきたい。また、常に最新の状態を保てるよう、定期的に点検していきたい。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	○学園の学生寮は設置されているが、本校からの新規入寮は受け入れていない。	○すでに入居している学生は、管理規則を遵守している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○学生確保のためにも、新規入寮再開を希望する。
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	○関連施設の体育館を年に数回授業やレクリエーションで利用している。	○関連施設のバスで送迎していただくため、利用しやすい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○今後も積極的に体育館を使用していきたい。

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策
1. クラス担任制をとり修学 に問題のある学生に対し て適切な対応を行っていますか	○担任1名、副担任2名で学生指導を行 い、問題がある学生については教務会議 で協議している。 ○必要な場合は教務主任と担任が保護 者と面談し、解決に努める。	○担任を中心に、親身に学生対応ができ ている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○指導が必要な学生が増えており、教員 の対応時間が長くなるため、他の業務に 支障をきたさないよう業務分担が必要 である。また、担任の役割・考え方を共 有することが大切である。
2. 学生に対してカウンセリ ング（心理相談）を行って いますか	○教員が学生と個別に対応しているこ ともあるが、臨床心理士と連携を取り、 相談しながら対応している。必要時、臨 床心理士と定期面談も行ってもらおう。	○臨床心理士が授業も担当してくださ っており、学生にとっては安心できる環 境である。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○カウンセラーの常駐が（少なくとも週 2回）望ましい。
3. 教室以外に休憩スペース が適当に置かれていますか	○ラウンジがあるが、3クラス重なると 狭い。 ○グループワークや自習のスペースが 不足している。	○歓談できるスペースが少ない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○ラウンジに机と椅子を追加した。 ○スペースに限りがあるため、効率の良 いラウンジの使い方を検討する必要が ある。
4. 食事場所や売店などのス ペースが設けられていま すか	○弁当屋、パン屋の販売があり、学生は ラウンジや教室で食事をとっている。売 店はない。	○学生数に比べてラウンジが狭いため、 教室での食事となる。 ○弁当やパンの販売は好評で、学生もよ く利用している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○関連病院の食堂利用についても検討 したい。
5. 学校独自に奨学金や特待 生制度を行っていますか	○関連医療法人の奨学金制度があり、1 クラスに6~7人利用している。	○給付型奨学金の要件が厳しく、関連施 設への就職に繋がらない恐れがある。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○完全給付型奨学金制度への変更が望 まれる。
6. その他	○京阪寝屋川市駅から JR 忍ヶ丘駅経由 で、学園の無料スクールバスが運行され ている。	○最寄駅である近鉄生駒駅からのスク ールバスがない。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○近鉄生駒駅からのスクールバスを検 討していく。

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

- 一人でも多く関連病院に就職して欲しいと願っている。医療法人和幸会と学校法人栗岡学園が連携し、目的が達成できるよう協力していきたい。
- 和幸会とは、図書室の開放、診療用具・実習室の貸借において協力、関連施設合同会議などで情報交換を行っている。
- 教員同士、学生・業務内容・看護技術に関すること等について話し合い、研修し、お互い質を高めたいと考えている。
- 学生に対して効果的な教育支援をしていくために、定期的な授業内容の見直しや、全教員による自己点検自己評価の結果を出した。
- 入学志願者の減少が著しい。学校の強み・弱みを検討し、魅力ある専門学校作りをしていかねばならない。
- 15年前とは学生の生活習慣や経済状況も変化している。より時代に合った学校整備（自転車置き場の屋根など）を検討していく必要がある。
- 学生が自ら学ぶことを支援するために、学習環境を整えることが大切である（物的・人的環境、特に教職員）